

左から吉田全作さん、伊藤宏恵さん、司会の西田多江さん



3月16日(日)、岡山市内山下のルネスホールで平成19年度受賞者のお祝い会「食と音楽の交差点」を開催しました。

この会は、受賞された方々の発表の場を兼ねたお祝い会という、財団の新しい試みで、第1回の今回は「食と音楽の交差点」をテーマに、平成19年度文化賞受賞者吉田全作さんと文化奨励賞受賞者伊藤宏恵さんをお迎えいたしました。

お祝い会は、伊藤さんの透き通った歌声で始まり、トークショーでは、日本にチーズの食文化を根付かせようという吉田さん、自分でしか表現できない歌を追い続ける伊藤さんの、「食」と「音楽」への熱い思いを語っていただき、会場は和やかな雰囲気になりました。

後半は、日本一美味しい吉田さんのチーズ8種類と岡山県産のお肉とパン、ワインを味わっていただき、伊藤さんの本場オペラを身近に感じていただきました。

参加者は約150人。人と人との交流の輪が広がり深まり、そして文化を楽しんでいただけた夕べになりました。これからもこうしたお祝い会が、受賞された方々の発表によって、新しい何かを生み出す場に発展することを願っています。(財団・和田)



和やかな雰囲気にもまれた会場

ちよつとお洒落なお祝い会

吉田全作さん・伊藤宏恵さん迎え「食と音楽の交差点」

Information

助成活動の募集について

文化活動助成

締め切りは、4月30日(水)です。申請を予定されている方は、お早めに提出をお願いいたします。

助成先の活動状況

◆魔法の弾丸99年の歩み

開催日 平成20年6月5日(木)～8日(日) 10:00-18:00 入場無料
会場 岡山市デジタルミュージアム
主催 秦佐八郎博士記念展示会実行委員会
第56回日本化学療法学会総会

平成20年度主な事業と予定について

教育関連事業

- 教育研究助成は広く浅く助成し、地域の教育力の向上に繋がる教育研究や活動を支援する。
- オーストラリアTAFEについて教育関係職員による研究調査に加え、世界に通用する若者の人材育成事業を展開。

文化関連事業

- 文化活動助成は広く浅く助成し、魅力ある地域を目指す文化活動を支援する。
- 「地域文化のルネッサンス」を目指し、瀬戸内海地域文化の振興を支援する。

* 詳しくは当財団のホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.fukutake.or.jp/>

予 定

| | |
|-----|------------------------|
| 5月 | 福武哲彦教育賞、谷口澄夫教育奨励賞 贈賞式 |
| 6月 | 理事会・評議員会 |
| 7月 | 教育関係事業 贈呈式・発表会 |
| 9月 | 文化関係事業 贈呈式・発表会 |
| 11月 | 福武文化賞、同奨励賞 贈賞式 講演会 |
| 12月 | 福武教育文化叢書第2作発刊 |
| 3月 | 平成20年度受賞者お祝い会、理事会・評議員会 |



F U E K I 不易
vol.30

[特集1]

決

教育賞・教育奨励賞

定

[特集2]

始

犬島アートプロジェクト

動



港から見える校舎

笠岡市沖にある笠岡諸島は、7つの有人島や30余りの島々から成り、北木島は其中でも最大で、周囲は19km、面積7.6km²、人口は約1600人。笠岡市の住吉港から乗船すること約1時間で、北木島の大浦港に到着する。島は良質の花崗岩を産出し、古くから石材業で栄え、大阪城築城の際には大量の石垣石を送り出したと伝えられている。このほか靖国神社の大鳥居・日本銀行本店・日本橋など、北木石を使った石造物は数多く知られている。

北木中学校は、昭和22年に創立。多い時には全校で400人を超える生徒が在籍していたが、現在は生徒数4人と県内でも最小規模の中学校である。しかし、その少人数のデメリットより、メリットに目をむけた教育活動に挑戦していると聞き訪問。すると学校では三つの柱をもとに教育活動を展開されていた。

一つ目は、少人数だからこそ出来る「個に応じたきめ細かな指導」とおして確かな学力を身につけさせること。言語活動を中心として、表現力やコミュニケーション能力の育成に重点を置いており、廊下や教室には生徒が毎週作っているという俳句、英語のトピックスなどが掲示され個人を大切にする学校の姿勢がよくわかる。

二つ目は、校内だけでなく、校外さらには島外での体験活動とおして、心身ともにたくましい生徒の育成を目指している点である。同じ笠岡諸島にある真鍋中学校や兵庫県の須磨学園との交流、笠岡市平和祭での発表、いきいきチャレンジ体験(職場体験)等での体験活動は、生徒たちに社会性を身につけさせ、これからの自分の生き方を考えさせるうえでも貴重な体験となっている。

この体験活動の一端は、2006年に岡山県スクールインターネット博で最優秀賞を受賞した同校生徒作成のホームページ「ちーちゃんのまほうのしま 北木2006」

「ぼくたちの頑張りが島に勇気や活気を」 少人数のメリット生かした教育活動に挑戦

に見える。協力すれば無限の力を発揮できる—そんな思いのこもったキャラクター「ムゲンマン」がホームページを躍動し、のどかな島の学校生活や島民も参加する文化祭、県外の中学生との夏休み勉強合宿などの学校行事が写真とともに紹介されており、「ぼくたちの頑張りは島に勇気や活気を与える」という熱い思いが伝わってくる。

三つ目は、家庭や地域と連携した学校づくりである。島にあるたった一つの中学校ということで、家庭や地域の方々が献身的に支援や協力を惜しまないという。平成19年度の文化祭では、地域からの出展や保護者と教職員によるフラダンス、生徒と教職員によるロックソーランや演劇が披露されるなど、学校と地域が一体となった行事が展開されていた。

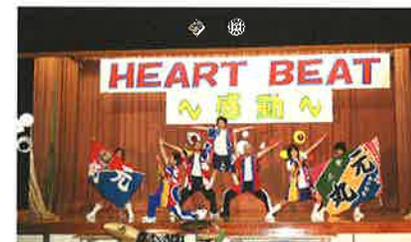
校内には創立50年を記念して作られた「石の記念室」があり、県内外から見学者も多い。創立60周年となる平成19年度には当財団の教育研究助成を活用して、「石の記念室整備事業」に取り組み、島をわかりやすく紹介するプレゼンテーション用DVDを制作している。採石場・加工場等の石材業や流し雛についての聞き取り調査や取材、「石の記念室」設置時の関係者の取材や学校での講話、字彫り体験等の活動を実践し、活動とおして生徒の表現力や自己肯定感及び郷土を誇りに思う気持ちを育てることを目指している。現在最終的な編集段階で間もなく完成するとのことであった。

少人数ながらそれをバネとして、力一杯未来に向けて羽ばたいている北木中学校生徒の皆さんにエールを送ると共に、島の勇気と活力を発信するDVDの完成を楽しみにしながら、石の島に別れを告げた。

(財団・赤松康弘)



石の記念室



文化祭では生徒と教職員によるロックソーランを披露

完成した犬島「精錬所」全景



”過疎の島に現代アートを投入することで、新しい形の社会を生み出していく試み”が、岡山市で唯一人が住む島・犬島を舞台に始まりました。香川県直島に地中美術館を中心とする現代アートを導入して国際的な評価を受けている「直島福武美術館財団」(理事長・福武総一郎ベネッセコーポレーション会長兼 CEO) が手がけるもので、2010年に瀬戸内一帯を舞台に開催される予定の「瀬戸内国際芸術祭」への期待が一気に高まりそうです。

犬島は周囲約4キロの小さな島ですが、良質の花崗岩を産出するところから、大阪城、岡山城の石垣を始め、古くから各地の石造物に使われ「石の島」として歴史に名を刻んできました。また明治期には銅の精錬所が建設されて島の人口が3000人を超える時期もあり、平成19年には、経済産業省の「近代化産業遺産story30」に認定されました。現在の犬島は、島民64人。限界集落といわれるほどの過疎の島となっています。



古代の神殿を思わせる犬島石を使った外観

完成した犬島アートプロジェクトの第1期工事となる建築物は、福武理事長が私財約10億円を投じて昨年2月から建設していたもので、人工的なエネルギーを使わず、太陽や地熱などの自然エネルギーと煙突

の高さによる気圧の変化を利用して館内の気温を一定にするなど環境にやさしい建物になっています。設計にあたったのは広島市在住の建築家・三分一博志氏で、建物の周囲には銅の精錬のとき廃棄されたスラグなどが混ざった土でも生育する芝や樹木を植栽し、瀬戸内海の自然に溶け合う工夫もされています。

こうした環境への配慮は、建物だけでなく排水などについても目が配られています。岡山大学環境理工学部の協力を受け、植物と鉱物、それに微生物(バイオ)を利用して排水をろ過する高度な水質浄化システムが採用され、海を汚さない思想が徹底されています。

また展示される作品群は広島市大准教授で、世界的な活躍で知られている美術家・柳幸典氏が担当し、著名な作家が住んでいた住宅の部材や犬島石などを素材にした現代アート作品など、建築とアートが一体化したこれまでは見られなかった空間が創出されています。

犬島プロジェクト第1期工事は4月4日に竣工式が行われ、4月27日から一般公開されますが、当面は金土日、祝日のみ開館される予定となっています。直島福武美術館財団では、このほか産廃問題で揺れた豊島にも美術館を建設するなど2010年開催予定の瀬戸内国際芸術祭へ向けての準備を着々と進めています。

なお入館には予約が必要です。開館日など詳しいことについては直島福武美術館財団(TEL 087-892-3755)までお問い合わせください。



バイオなど利用した循環型水質浄化システム

始 犬島アートプロジェクト 動

瀬戸内国際芸術祭への期待高まる

Cover Photograph



写真 人見文男

千手山弘法寺の駒供養 (瀬戸内市)

報恩大師開基と伝える瀬戸内市の弘法寺に駒供養(練り供養)が復活して10年目を迎える。駒供養は“熱心な信仰に生きた天平の尼僧・中將法如尼(中將姫)が29歳のとき、阿弥陀如来を始め多くの菩薩の迎えを受け、生きたまま西方にある極楽浄土に旅立ったという伝説”をもとに劇化したもの。弘法寺のこの法会は、中將姫が修業した奈良の当麻寺、浄土宗を開く法然ゆかりの美作・誕生寺と共に日本の3大練り供養とされている。多くの練り供養が、浄土からの迎えを25菩薩としているのに対して、ここでは6菩薩と天童、地蔵の各々2仏が中將姫の坐像を迎える古い形式を残している。5月5日の法会の日。それぞれの仏に扮した檀家たちが、弘法寺の東壽院を出発し遍明院へ向かって練り歩く。普段静かな境内も、この日は200人近い信徒で賑わうという。

Editor's comments

第22回福武哲彦教育賞に柴田一先生が選ばれました。柴田先生は当財団の前身の福武文化振興財団が設立された1997年以来財団の役員を勤められ、財団にとって大きな功労者であり、岡山県の教育、文化にとっても大きな功績を刻まれています。心からお祝い申し上げます。

不易30号は、この福武哲彦教育賞と谷口澄夫教育奨励賞を受賞された方々の紹介とオープンした犬島「精錬所」を特集したほか、少人数でユニークな活動をしている北木島の子どもたちの話題を中心に掲載しました。またいつも表紙の写真を提供していただいているのは、当財団の助成で懇意になった「写真家集団北斗」のアドバイザー・人見文男さんで、今回はマスコミでは紹介されることが少ない千手山弘法寺の駒供養(昨年撮影)を届けていただきました。

不易は現在2300部発行して、皆さまのお手元に届けていますが、今後読者の皆さまの投稿も掲載したいと思っています。岡山の文化に関すること、教育に関すること、皆さまの日ごろの思いを800字以内に綴ってお寄せください。また掲載を希望する情報提供も大歓迎です。編集室で検討し、不易の担当がお伺いしてレポートいたします。

この不易をひとつの広場として、岡山の教育、文化に関心を寄せていらっしゃる方々の輪が広がっていけば、そこからまた新しい何かが生まれると期待しています。より良い地域づくりを目指して、皆さまと一緒に歩みを進めたいと思っています。投稿、情報をお待ちしています。(S)

季刊 不易

F U E K I vol.30 2008.4.25

財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市南方3-7-17
TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190
http://www.fukutake.or.jp/

制作 株式会社 吉備人

デザイン 田中雄一郎(QUA DESIGN style)

岡山県の教育の向上に貢献した個人や団体を顕彰する第22回福武哲彦教育賞、第8回谷口澄夫教育奨励賞の選考委員会が3月28日岡山市内のホテルで開かれ、厳正な審査の結果、本賞に1個人1団体、奨励賞に2個人3団体が決定しました。受賞者は次の通りです。

贈賞式は、5月16日(金)岡山プラザホテルで行う予定です。

【福武哲彦教育賞】



柴田 一氏

(就実大学元学長・岡山市在住)

昭和28年、大学卒業後から後期中等教育の現場で尽力し、平成13年度からは大学長として高等教育の推進に多大の足跡を刻まれました。一方、学術研究においても臨地主義と人間中心主義の徹底にあるともいえる姿勢で、岡山藩及びその周辺の政策施策と人物に関する研究で多くの実績を残し、多数の市史・町史編纂事業においても中心的役割を果たされています。主な著書として『近世豪農の学問と思想』『岡山藩郡代津田永忠』などがあります。



岡山県立津山商業高等学校
(津山市)

県北地域のビジネス教育の拠点として、平成19年には地域ビジネス科を設置し、急速に変動する社会環境や産業構造に柔軟に対応できる人材の育成を目指しています。地域と連携した活動が生徒を育てることに着目し、地域商店街と共に活動することで学習し、さらに学んだ知識を地域に還元するといった生きた教育の実践を継続的に行なっています。その事例の一つとして、ニシキゴイを養殖、販売する本格的なビジネス「有限責任事業組合(LLP)」を設立し、新たな地域特産品にしようと取り組んでいます。

決

福武哲彦教育賞に柴田一氏、岡山県立津山商業高等学校

谷口澄夫教育奨励賞に全円子氏ら二個人三団体

定

【谷口澄夫教育奨励賞】

◆ 全円子氏 (岡山商科大学講師・岡山市在住)

岡山県で初めての在日教師。様々な困難に努力で打ち勝ってきた成果と、日韓両国の間に大きな交流の橋を架けていきたいという姿勢は、国境を越えて評価されると考えます。

◆ 保野孝弘氏

(川崎医療福祉大学教授・倉敷市在住)

専門である睡眠や基本的生活習慣の大切さについて指導するとともに、子どもの生活リズム向上に向け、学生たちを巻き込みながら先進的な取り組みを展開しており、生涯学習・社会教育の指導者として今後も大きな活躍が期待されています。

◆ 岡山県立矢掛高等学校 (小田郡)

学校設定教科「環境」を開設し、地域の環境に関するボランティア活動にも積極的に取り組み、さらに様々な事業を通じて関連機関・団体との連携を図りながら、ESD(持続可能な開発のための教育)の取り組みを推進し、成果を上げています。

◆ 倉敷市インクルージョン推進事業全体協議会
(倉敷市)

支援を必要とする子どもたちの地域での就労に向けて、学校・地域・保護者・企業・行政などが力を合わせて仕事体験に取り組んでおり、今後全国的にも高く評価されると期待します。

◆ 明誠学院高等学校チアリーディング部GAIAS
(岡山市)

地域の子どもたちやお年寄り、ハンディキャップを背負った人々と交流を持つため、様々なイベントに積極的に参加しながら、昨年、念願のジャパンカップの出場を果たしました。彼女たちの合言葉「感謝」から生まれる元気と笑顔は学校や地域に感動を与え続けています。

創設以来の受賞者は、福武哲彦教育賞57件(24氏、33団体)、谷口澄夫教育奨励賞33件(23氏、10団体)となりました。